



令和2年度 2月人権一口講座



「分断」

毎日テレビや新聞の報道では新型コロナウイルス感染症のことが取り上げられています。私も自宅で過ごすことが多くなり先日レンタルビデオ店で「ドリーム」という映画を借りました。それは少し前の報道でアメリカでは人種間の問題が連日のように報道されていたことを思い出したからです。

舞台は人種差別が色濃い1961年のNASA（米航空宇宙局）でアメリカに実在した黒人女性の物語です。科学技術最先端のNASAでさえも当時は黒人と白人の職場は別室に分けられおり、トイレも「黒人専用・白人専用」と分断されていました。そのような中、数学が得意で宇宙船の軌道計算を担当する黒人女性キャサリン、自分の得意とする分野で活躍する女性たちが「人種差別、男女差別」の壁を、その稀にみる才能と努力で他から認められ地位を勝ち取っていくというお話です。物語の中で白人の女性上司が「勘違いしないでね。差別しているんじゃないのよ。」という言葉に対して黒人女性が「知っています。ご自分でそう思い込んでいるのは。」と言い返す場面がありました。この言葉こそが差別の根底にあるのではないかと思えます。

この映画「ドリーム」に描かれた主人公の黒人女性三人のそれぞれですが、メアリーは全米初の黒人女性航空技師になり、後進を育成し女性の地位向上に貢献。ドロシーはNASA初の黒人管理職にNASAが誇る天才として名をはせました。キャサリンは月面着陸やスペースシャトル計画に参加し、宇宙開発における活躍をたたえられ施設に彼女の名前をつけられたほどのです。当時の状況下での活躍なので相当の努力や苦労があったのだと思います。

現在、新型コロナウイルス感染症で、病院内では通路や病室、そして人々との関係も分断されています。皆さん方の心も塞ぎがちになったり、いろいろしたりと何かと大変だったと思います。ですが、助け合って努力してこの状況をきつと克服して、笑顔で東京オリンピックピックを迎えることができることを切に願っています。

（ふれあい文化センター広報誌「かけはし」二月号より）

短いメッセージ え？ そうなの？ 初めてわかった共通点
これからたくさん 話そうね

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 飽田中学校3年 柳井ののかさんの作品より